

大淀町

～ 来たい、住みたい、住み続けたいまち大淀町 ～

奈良県中部に位置する大淀町は、古くから大和盆地と吉野地域を結ぶ交通の要所として発展してきました。自然豊かなベッドタウンで、吉野郡の玄関口として梨・お茶などの農産物の栽培が盛んな町として知られています。住みよいまちを目指して子育て支援拠点の開設や地域の活性化など、次の世代に魅力あるまちとして引き継ぐことができるよう、様々な取組みを進めています。

I 概要

1. 地理と歴史

大淀町は県中部に位置し、北は高市郡高取町、西は御所市、南は五條市・吉野郡下市町、東は吉野郡吉野町と接する人口 16,251 人、世帯数 7,383 世帯（2023 年 8 月 31 日付 大淀町行政区別人口世帯数統計表）、面積 38.10km²の町である。

北部一帯は竜門山地に属する豊かな森林が広がり、西部は^{おおあだ}大阿太高原をはじめ丘陵地が多く、南側は悠然と清流、吉野川が流れるなど自然環境に恵まれている。

鉄道は町内に近鉄吉野線の 6 つの駅があり、橿原市内まで約 25 分、大阪・奈良市内まで約 60 分の通勤・通学圏であるため、ベッドタウンとしても便利な立地である。

道路は国道 169 号、309 号、370 号が交差する

大淀町の位置図



位置にあり、県北部方面から吉野・熊野地域への玄関口となっている。大阪・和歌山方面へは町の中心部から京奈和自動車道の御所南 IC、五條北 IC と約 20 分で結ばれるなど車でのアクセスも良好である。

2. 産業構造

従業地による就業者人口（15 歳以上）の産業別割合を見ると、第 1 次産業が 4.2%、第 2 次産業が 26.8%、第 3 次産業が 69.0%となっており、奈良県全体（順に 2.4%、22.1%、75.5%）と比べて第 1 次産業のウェイトが高い（総務省「国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計」（2020 年））。

民営事業所数は、704 か所（県内 17 位）で従業者数は 6,002 人（同 16 位）となっている。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査（2021 年）」）。

業種別の事業者数では順に卸売・小売業 23.9%、サービス業 13.4%、製造業 12.3%、従業者数は卸売・小売業 22.4%、医療・福祉業 21.5%、製造業 12.6%となっている。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査 速報集計」（2021 年））。

3. 人口構造

年齢階級別人口移動を見ると、子育て世代や若年層（15 歳以上 40 歳未満）の転出に伴う人口減少が顕著である（総務省「国勢調査 移動人口の男女・年齢等集計」（2020 年））。

町の高齢化率は 36.6%と吉野郡平均の 44.3%を下回るものの、県平均と同水準で、上昇傾向が続いている。（奈良県「年齢別推計人口」（2022 年））



II 子育て支援・少子化対策重点プロジェクト

1. 子育て支援への取り組み

大淀町は豊かな自然環境や良好な交通アクセスなど快適な住環境を背景に、1975年頃から住宅開発が進められた。総人口は2000年に2万人を超えるなど、ベッドタウンとして県内外より多くの転入者を受け入れてきた。しかしながら、その後、進学や就職をきっかけに町外に転出する傾向が強まり、既存市街地では商店街を中心に空洞化が目立つようになった。

そのような中、同町の職員や議員として30年近く町政に携わってきた辻本眞宏氏が令和4年11月、町長に就任した。辻本町長はこれまで培った行政経験を活かし、住みやすい町として住民が安全・安心に暮らせるよう計画的・効率的な行政運営に努めている。また人口減少に歯止めをかけ、活力あるまちづくりを進めることで、次の世代に魅力ある町を引き継ぐことができるよう、「子育て支援」に関する施策に重点的に取り組んでいる。

2. 大淀町子育て支援拠点施設～未来樹～

大淀町は第4次総合計画において「子育て支援・少子化対策重点プロジェクト」を掲げている。同プロジェクトの中心的事業が、2025年4月に旧町立大淀病院跡地に開設予定の「子育て支援拠点施設～未来樹～」の整備である。

同施設は就学前児童の教育・保育を一体的に行う保育所型認定こども園で、発達支援室、地域子育て支援センター、病後児保育室の機能を併設している。



子育て支援拠点施設（未来樹）

成長が著しく、生涯にわたる人格形成の基礎を養ううえで極めて重要な乳幼児期に安心して健やかに育つことができるよう、より質の高い教育・保育を実現させる施設として、子育て支援にかかわる町の施設や機能を集約し、関係者が一体となって子育て支援に取り組むことのできる体制づくり

を目指している。

同施設は町内の住民だけでなく、同町に関わるすべての人々に利用してもらえる施設として整備を進めており、地域全体の魅力向上や次世代を担う子育て世代の定住促進につなげる効果が期待される。

少子高齢化による人口減少が進むなか、町全体で子育てを応援するまちづくりに取り組んでおり、住民の子育てに対する不安を少しでも取り除き、安心・安全を提供することで、将来にわたり住み続けたいまちとして子育て世代に選んでもらえるよう魅力あるまちづくりを進めている。



「子育て支援拠点施設（未来樹）」の完成イメージ

【未来樹設立により期待される効果】

- 子育て支援に関する窓口のワンストップ化
- 経験豊富な職員を集約することで様々な課題や悩みを抱えた保護者に対する幅広い対応
- 配慮が必要な子どもに対する支援の充実
- 妊娠・出産・育児など切れ目のない支援
- 他市町村の住民への利用開放による利便性の向上
- 子育て世代だけでなく多世代間の交流促進
- 近隣住民等とのイベント開催による地域の活性化

III 様々な機能が集約する福神地区について

1. 様々な機能を併せ持つ魅力ある福神地区

町の主要な産業拠点地域として町の西部に位置する福神地区が挙げられる。企業誘致ゾーンとして事業用地開発が進められ、工場や病院、メガソーラー発電施設などが立ち並んでいる。

近鉄吉野線・福神駅が徒歩圏内で、京奈和自動車道・五條北ICまで車で約15分の距離で結ばれる。

また事業用地の近くには住宅地として開発が進められている「花吉野ガーデンヒルズ」が隣接す

る。地区内には7つの公園や貸農園もあり、自然環境を活かしたきれいな街並みが特徴である。

近隣にはスーパーなどの商業施設や学校などの生活基盤が整備されている。同住宅地の人口や世帯数は緩やかな増加傾向が続いており、特定の世代に偏ることなく、バランスのとれた年齢構成を形成している。このように福神地区は様々な機能を併せ持つ魅力ある地域である。



きれいな街並みが広がる住宅地「花吉野ガーデンヒルズ」

2. 南和の医療拠点「南奈良総合医療センター」

大淀町を含む県南部地域は、公立病院の医師や看護師数が減少しており、患者の入院や救急医療への対応に支障をきたすなど医療機能の低下による様々な課題を抱えていた。

そこで奈良県と五條市、大淀町を含む吉野郡11町村でつくる南和広域医療企業団が南和エリアの医療体制を再構築し、2016年4月、福神地区に「南奈良総合医療センター」を開院した。



南和地区の医療拠点「南奈良総合医療センター」

「南和の医療は南和で守る」を基本理念に、専門診療として26の診療科、チーム医療として在宅医療支援やがん相談支援など11のセンター機能を有している。屋上にヘリポートを設置し、ドクターヘリによる患者搬送の受け入れを可能にする

など、緊急医療や災害医療、へき地医療にも重点的に取り組んでいる。

同センターは、南和の医療拠点として、大淀町はもとより南和エリアに暮らす人々の健康と安心を先進の医療機能で支えている。

IV 地域資源を活かした地場産業の振興

1. 森林資源を活かした木材産業

大淀町は面積の約半分を森林が占めており、吉野材として知られる良質なスギやヒノキなど豊富な森林資源に恵まれている。このような背景から製材・木製品製造業を中心に伝統的に木材産業が発展した地域である。

町内にある原木市場で原木市が定期的で開催され、集積地として木材工業団地が立地している。近年は木質バイオマス発電所が稼働するなど木材関連産業にも強みがある。木材産業の振興に向け、森林整備による林業生産機能の維持や森林資源の有効活用に取り組んでいる。

2. 県下一の出荷量を誇る二十世紀梨の名産地

温暖な気候となだらかな丘陵地を有している同町は梨が育つのに必要な日照・気象・土壌の3条件がそろった栽培適地であり、大阿太高原を中心に様々な品種の梨が栽培されている。

中でも適度な酸味と糖度を備えている「二十世紀梨」は青梨の王者と言われ、同町は県下一の出荷量を誇っている。1902年に千葉県松戸市から穂木を取り寄せ、接ぎ木をしたのが始まりとされ、先人たちが努力を重ね土壌改良が進められ、ようやく当地に合う独特の魅力を持つ二十世紀梨の栽



大阿太高原で栽培される「二十世紀梨」

培方法を完成させた。

2020年に大きさや形など外観だけでなく品質面でも優れた特徴を持つ農産物として県が認定する「奈良県プレミアセレクト」に千分の1の確率でしか採れない「樹上完熟梨」が選ばれるなど品質の高さが認められている。

3. 良質な大和茶と知られる日干番茶^{にっかんばんちゃ}

大淀町は古くから良質な大和茶の産地として全国に知られている。

^{なかまし}中増地区は日当たりと水はけがよく、お茶の栽培に適した地域で、その歴史は江戸時代以前にまでさかのぼる。お茶の生産工程にも工夫があり、摘み取った茶葉をよく蒸し、その後、揉まずに1日以上天日でしっかりと乾燥させてできあがることから「日干番茶^{にっかんばんちゃ}」と言われる。渋みや苦みが少なく、旨味が濃いのが特徴で、地元では「増茶^{ましちや}」という愛称で親しまれている。この番茶を焙じると香ばしい「ほうじ茶」を作ることができる。

同町は伝統あるお茶を活かしたまちづくりをすすめており、県のアンテナショップでの手もみ茶作り体験や試飲会のイベント開催など、日干番茶をはじめとするお茶の魅力を全国に発信することで、関連する特産品などの販売拡大を目指している。



(左) 中増地区の茶畑 (右) 天日で乾燥させた「日干番茶」

4. 吉野エリアの玄関口として観光拠点づくり

県南部地域には吉野山や大峰山、北山や十津川地域など魅力ある観光地が存在している。同町の役割として期待されるのが周辺観光地域への吉野エリアの玄関口として、観光に関する多面的な拠点機能である。

近鉄吉野線・下市口駅は観光地への大型バスの発着地として、道の駅・吉野路大淀iセンターは車を利用した観光客への案内機能や休憩施設の拠点として、それぞれ整備が進められており、吉野

エリアの交通の要所としての役割を果たしている。

また、町を訪れる観光客の周遊性を高める試みとして吉野川でのキャンプや鮎釣り、梨やぶどうの観光農園といった町内に存在する観光資源の有効活用や地域の特産品をテーマとしたイベント開催などを通じて、誘客から生じる経済効果を町全体に波及させる取組みを推し進めている。



悠然と流れる清流「吉野川」

大淀町は吉野郡で最も人口が多く、また行政機能が充実し利便性も高いことから、吉野郡の中核を担う存在である。

辻本町長は「町内だけの発展を考えるのではなく、広域のエリアで物事を俯瞰的に見ていくことが大切」と語る。同町は大和盆地と吉野地域を結ぶ交通の要所として発展を遂げてきた。今後も製造・商業・物流・医療・観光・居住など地域の発展を牽引する主要拠点としての役割が求められている。

拠点機能を活かしたまちづくりに取り組むことで、企業立地を促し、新たな人的交流や雇用の場の創出が期待される。多くの人々にこの地域で住みたいと選択してもらえるよう、子育て支援の充実や住民サービスの向上など、魅力あるまちづくりを進めている。

町の基本理念である「来たい、住みたい、住み続けたいまち」の実現には地域住民を主体とした、人口減少・少子高齢化に即したまちづくりへの継続的な取組みが欠かせない。次世代に魅力あるまちを引き継ぐため、地域の活性化や課題の解決に向け、これから展開される様々な施策が実を結ぶことが期待される。

(井上主税、秋山利隆)